

長岡半太郎博士略年譜

年 号	年 令	年 譜
慶応元年	0	8月15日、肥前の国大村（現長崎県大村市）で大村藩士長岡治三郎、母きくの長男として生まれる。
明治4年	6	大村藩校五教館に学ぶ。長岡治三郎は岩倉具視全権使節団と共に欧米視察に赴く。
明治7年	9	一家上京、本郷湯島小学校に編入学、後に共立学校、東京英語学校に学ぶ。
明治15年	17	東京帝国大学理学部入学
明治20年	22	東京帝国大学理学部卒業。大学院に入学。
明治21年	23	磁気歪に関する処女論文発表、以来地球物理学・光学・理論物理学の論文発表。
明治23年	25	東京帝国大学助教授
明治26年	28	理学博士、ドイツ留学
明治29年	31	帰国、東京帝国大学教授
明治39年	41	帝国学士院会員
大正12年	58	9月1日、三浦半島北下浦にて関東大震災を経験。
昭和元年	61	東京帝国大学理学部教授を定年退官
昭和6年	66	大阪帝国大学創立、初代総長
昭和12年	72	文化勲章制定第1号を授けられる。
昭和24年	84	湯川秀樹のノーベル物理学賞受賞講演
昭和25年	85	12月11日自宅に於て研究中脳出血にて急逝。

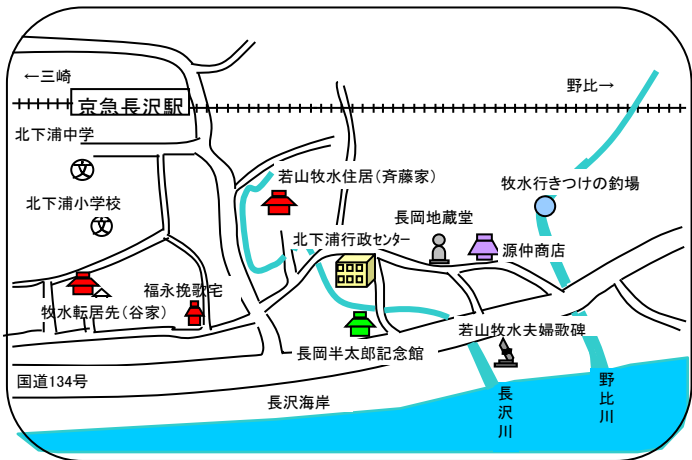
▼長岡博士愛用の鬼の机



若山牧水略年譜

年 号	年 令	年 譜
明治18年	0	8月24日宮崎県東臼杵郡東郷村坪谷に、父立蔵、母マキの長男として生まれる。繁と命名。
明治25年	7	坪谷尋常小学校入学。
明治29年	11	坪谷尋常小学校主席卒業、延岡高等小学校入学。
明治32年	14	延岡中学入学。短歌、散文、俳句等文学活動参加牧水と号す。
明治37年	19	早稲田大学入学、尾上柴舟の門に入る。
明治40年	22	園田小枝子と恋愛に陥る。
明治41年	23	早稲田大学卒業。処女歌集「海の声」出版。
明治43年	25	歌集「独り歌へる」を出版、創作編集、歌集「別離」を出版、一躍歌壇の花形となる。
明治45年	27	太田喜志子と結婚。歌集「死か芸術か」を出版、父立蔵死亡、石川啄木の最期をみとる。
大正2年	28	長男「旅人」出生、歌集「みなかみ」を出版。
大正3年	29	歌集「秋風の歌」を出版。
大正4年	30	病妻のため神奈川県三浦郡北下浦村に転居。歌集「砂丘」を出版、長女みさき出生。
大正5年	31	散文集「旅とふる郷」出版、歌集「朝の歌」出版、12月東京小石川に引き揚げる。
大正6年	32	妻と合著の歌集「白梅集」を出版。
大正7年	33	次女真木子出生。歌集「溪谷集」、歌集「さびしき樹木」出版。
大正9年	35	年来の希望であった静岡県沼津市に移る。
大正10年	36	歌集「くろ土」出版、次男富士人出生。
大正12年	38	歌集「山桜の歌」を出版。
大正13年	39	随筆集「みなかみ紀行」を出版。
大正14年	40	沼津市市道の新築の家に移る。
昭和3年	43	9月17日急性胃腸炎兼肝臓肝硬変症にて永眠。乗運寺に葬られる。

< 案内図 >



横須賀市

長岡半太郎記念館

若山牧水資料館



案 内

所 在：横須賀市長沢2丁目6番8号
(電話 046-848-5563)

観覧時間：午前9時～午後4時(昼休みを除く)

休 館 日：月曜日(祝日のときは翌日)
年末年始(12月29日～1月3日)
(都合により臨時休館することがあります)

入 館 料：無 料